

# 北社会ニュース 才42号

2008年4月22日

発行者： 鈴木壮夫

## (1) 本日、第261回北社会

講師：落合道夫氏（高14回） 「近代史の考え方と日本人の課題」

“目からうろこが落ちる”という言葉がありますね。出典は新約聖書だそうです。落合さんが1月15日の北社会新年会で私家本「スターリンの国際戦略から見る 大東亜戦争と日本人の課題」を皆さんに紹介しました。半月後、ご注文して送っていただき、読み始めました。「近代史」というテーマの授業を私は受講しておりません。社会党・右派構造改革派支持だった私はそれなりに近代史に関心を抱き、まあまあ自分が納得できる位に関係本を読んでいました。そんな背景もあり、20年前中国北京での3年弱の駐在期間中、卑屈にも、高飛車にもならず、中国人とお付き合いできた。でも、中国共産党の一党独裁～20年後の今でも続いている～には容認できなかつたし、私と同意見の中国人が少なからずいることも知った。そんな私だから尚更かもしれないが、落合さんの主張を拝読して“目からうろこ・・・”となった。67才にもなって歴史観がぐらつくのは正直辛い。でも、逃げるわけにはいかない。日中混血の孫のためにも。皆さん、ご自分の軸をしっかり保持しつつご清聴下さい。「近代史」を学びましょう！

## (2) 来月以降の北社会

5月19日（月） 講師：和賀井敏夫氏（中42回）

「石巻名誉市民第一号就任に関連して」

和賀井先輩は1924年のお生れ、今年84才、若さの維持もお聞きします。

6月16日（月） 講師：早坂昭夫氏（高11回）

「液晶ディスプレイの夢」

## (3) 庄司恒一氏（高22回） 母校校長に就任

“202222” 庄司校長先生の同窓会名簿の整理番号です。新制高校は“2”高22回なので“022”そして同期生のあいうえを順で“222”番目。二高の校長になられるような宿命だったのかもしれませんが。教科は「化学」だそうです。6月、母校を訪問お会いする予定です。早い時期にご上京願ひご講演をと思ひめぐらせております。

## (4) 高11回 一高・二高 応援団長 50年振りのエール交歓

後藤克紀氏と善積康郎氏、両校応援団長に4月1日、川越に御出でいただき、約4時間話は尽きなかつた。当時、一高には卒業アルバムも名簿も作らなかつた。同期生相互連絡に苦慮している。でもそれが一高。お互いパートナー存在を幸せに感じた春宵でした。